

外来化学療法を受けているがん患者の食事と栄養面の支援について

—通院治療室の管理栄養士と看護師へのインタビューを通して—

野地 有子¹⁾, 目黒 春菜²⁾, 藤本 早矢也²⁾, 田澤 敦代²⁾, 曳地 陵子²⁾,
野本 尚子³⁾, 中野 香名³⁾, 五十嵐 大輔³⁾, 米山 晶子³⁾, 岡本 美孝³⁾

- 1) 千葉大学大学院看護学研究科, 2) 千葉大学医学部附属病院看護部
3) 千葉大学医学部附属病院臨床栄養部

【目的】

近年がん治療の一つである化学療法の場合、入院から外来へと移行してきている。本研究では、外来化学療法を受けているがん患者の食事と栄養面について、食べることを治療の一環として支援するための課題について検討することを目的とした。

【方法】

急性期 A 病院の管理栄養士 3 名と看護師 2 名への半構成インタビューを、1 回およそ 30～40 分で 1 名に 1～2 回、関係部署とインタビュー対象者の承諾を得て実施した。インタビューの内容は、①通院治療室を利用するがん患者の特徴について、②患者支援で課題と感じていること、③対策への希望、④通院治療室看護師に必要なこと、⑤療養生活の支援で重視していることであった。インタビューの逐語録から質的機能的に分析し、カテゴリーは《 》で標記した。データ取り扱いおよび結果の公表について、倫理的配慮の上行った。

【結果】

- ① がん患者の多くに《生活習慣改善の必要性》《適切な栄養管理の必要性》があると述べられた。
- ② 課題として《食事、栄養面の改善に向けた取り組みは困難》が生じていることが示された。
- ③ 対策への希望は、管理栄養士、通院治療室看護師ともに、治療の段階に応じた綿密な相互連携および、情報共有や管理栄養士の活用が進む新たなシステム開発であった。
- ④ 通院治療室看護師が考える通院治療室看護師に必要なことには、個別ケアに活かせる看護記録の作成、患者への食事や栄養面の重要性の説明があげられた。
- ⑤ 療養生活の支援で重視していることは、《安全な治療の継続・完遂》《患者を生活者として捉えその生活を基盤とした支援を考える》《効果的な支援のための多職種連携体制づくり》があげられた。

【結論】

外来化学療法を受けているがん患者の食事と栄養面の支援について、通院治療室の管理栄養士と看護師へのインタビューを実施したところ、A 病院における通院治療室のがん患者の特徴には《生活習慣改善の必要性》《適切な栄養管理の必要性》があげられた。これらのニーズに対する支援として、治療の段階に応じた綿密な連携および、情報共有や管理栄養士の活用が進む新たなシステム開発等があげられた。食べることを治療の一環として当事者を支援することが治療の継続・完遂、生きる活力や希望の源である楽しみという重要なニーズにつながることを示された。